
似非百物語

希浦イオリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

似非百物語

【Nコード】

N9145Y

【作者名】

希浦イオリ

【あらすじ】

これは希浦イオリが「意味が分かると怖い」に影響されて書いた一応ホラーです。

百物語を始めた佐藤、斉藤、加藤。
運命はいかに！？

始まる前

古い畳と土壁の匂いがする。

佐藤は蝋燭を並べながら、辺りを見渡した。

「ふいんきでるなあ」

つつこまず、加藤はポ　ラを起動する。

「ね、加藤くん、用意できた？」

「バッチリだよ」

斉藤に答える。

「んじゃあ、加藤くんが記録係でわたしと佐藤くんが語り手。ドキドキするねえ」

そうなのだ。

これから始めるのは、百物語。

どんな恐怖が待ちかまえるのかはわからないが、やり抜くのみである。

「じゃ、俺からな」

佐藤は蝋燭を引き寄せて言った。

今日の「飯」

（佐藤）

不倫していた男は、愛人の家から帰った。
妻はカレーを作っていた。

「できてるわよ、貴方」

「そうか、旨そうだな」

「召し上げ」

「そうだ、健太はまだ帰らないのか？」

「部活で遅れるらしいの」

「そうか、大会前だもんな」

男は妻とカレーを食べた。

「今日のは旨いな。何か本を読んだのか？」

「違うわよ、いつも通りよ。ただ、ちょっと隠し味をね。スパイスに凝ってみたの」

「そうか」

その日ははやく寝てしまった。

次の日、妻は朝早く外出していたらしい。

「朝食は味噌汁、昼はトンカツか……」

まさか昼のトンカツまで作っていくとは思わなかった。

「……ん？」

男が書斎に行くと、紙が置いてあった。

「これは、離婚届……！」

そして手紙には、「子どもは私が育てます、さようなら、もう会いたくない」と書いてあった。

携帯は繋がらなかった。

男は自分の過ちを悔い、泣きながらトンカツを食べた。そのままその日は寝てしまった。

三年して男は愛人と結婚し、それから子どもが生まれた。そんなある日、今の妻は別れ話を切り出した。

「貴方の友達の藤木さんと結婚するから別れて頂戴」
男は慌てた。

「待てよ、子どもはどうするんだよ」

「私がなんとかします」

「奴に騙されているんだ。あいつには家庭があっただな、細君も大きな子どももいるんだ」

「いないわ」

「いるんだよ」

「貴方が知らないだけよ」

妻は包丁を取り出して言った。

「貴方はカレーとトンカツ、どっちがいい？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9145y/>

似非百物語

2011年11月27日12時59分発行